

私たちはアングレームには行きません！

FIBD 2026：ボイコット宣言！

ここ数ヶ月、私たち漫画業界のプロフェッショナル——作家やその他の関係者たちは、FIBD アングレーム協会に対し、約 20 年間にわたってフェスティバルの運営を担ってきた「9eArt+」社との契約の問題点を繰り返し訴えてきました。

この会社の経営手法は複数の報道機関により問題視されており、特に『リュマニテ・マガジン』の調査報道では、第 51 回フェスティバルにおいて性暴力を告発した女性従業員が解雇されたという事実が明らかになっています。

4 月 3 日に開かれた ADBDA の会合において、FIBD 協会は「9eArt+」社との契約の解消を検討していると述べました。しかし、その一方で、フェスティバルの運営を公正な公募プロセスに委ねるという姿勢は見られず、逆に「9eArt+」と SAS（簡易株式会社）を設立し、その会社にフェスティバルの無制限の運営権を与える計画を進めようとしているように見受けられます。

私たちは FIBD 協会に対し、改めて強く主張します。50 年以上にわたりアングレームのフェスティバルが漫画界において不可欠なイベントへと成長したのは、まさに私たち——漫画家、編集者、翻訳者、ジャーナリスト、批評家、そして読者——の存在と活動があったからです。

このフェスティバルは今や社会全体のものであり、漫画というメディアの存続のためにも公共の利益に資するイベントとなっています。したがって、個人的な利益や一方的な判断によってこれを縛ることは許されません。

さらに、私たちが何度も問題を提起してきたにも関わらず、それを無視し続けるような態度のもとで、このイベントの運営を再び長期にわたって、透明性のないまま疑念を抱かれている企業に委ねるなどということは、到底受け入れられません。

このような現状を踏まえ、私たち漫画業界の労働者たちは FIBD 協会およびそのすべてのパートナー（公的・民間を問わず）に対して、今後この契約を正式に解除し、運営を公募で決定しない限り、2026 年のフェスティバルへの大規模なボイコットを呼びかけることをここに宣言します。

私たち抜きでは、このフェスティバルはただの器だけの空疎なものになるでしょう！